

授業とは何をいうか[†]

—「しみじみとする授業」の先にあるもの—

溜池 善裕*
宇都宮大学教育学部*

概要 「しみじみとする授業」は、戦後の初等社会科を作った重松鷹泰が1970年頃に見出した「よい授業」の条件を満たす授業である。この授業に到達した子ども達において設定される最終単元、即ち「しみじみとする授業」の先にあるものとは、我々が我々として存在することへの祈りにも似た感謝である。

キーワード: 重松鷹泰, 宮崎富士也, 授業分析, よい授業, しみじみとする授業, 個性的思考, 共存の感情

0. 目的

「しみじみとする授業」は、今日あまり馴染みのないものではあるけれども、我が国の初等社会科の生みの親であり、授業分析の創始者である、重松鷹泰が見出した「子どもがする授業」であって、またそれが最終的に目指す「よい授業」そのものであることが、筆者の研究を通して次第に明らかになってきた⁽¹⁾。だが筆者は、以前に「卒業を前にして」を考察した際⁽²⁾、研究が十分ではなかったために、この単元を奈良の学習法の延長線上に位置づけ、考察を不十分なものにしてしまった。そこで今回は、単元「卒業を前にして」を「しみじみとする授業」との関連で位置づけて分析・考察し、その意義をあらためて考究するものである。

1. 「卒業を前にして」

単元「卒業を前にして」は、宮崎富士也が現役を退いてから関わった教師、金津琢哉、薄田大智両氏によって計3回、実践が試みられている⁽³⁾。宮崎は重松が奈良女高師附小主事であった頃から附小に入りし、その後、重松が顧問をつとめていた帝塚山小学校の教師となったが、そこで、帝塚山学園授業研究所長でもあった重松に直接指導されながら実践を積み、研究主任をつとめている。重松による現場教師の指導はどこまでも優しいことが定説であるが⁽⁴⁾、そのような重松が厳しく指導した⁽⁵⁾唯一の教師が宮崎である。宮崎は自らも実践記録⁽⁶⁾を著した後、

61歳で寝屋川市・大阪聖母女学院小学校に再就職し、着任1年目の1984年10月26日に、小1・合科「食べられる草や木の実」を実践している。この実践は、重松が中心となって編集した授業記録集に2度収録されてそこで高く評価されており⁽⁷⁾、宮崎のこの実践は、重松の言う「よい授業」であり「しみじみとする授業」であることに相違ない。さらには、宮崎と重松との関係から判断すると、宮崎こそ重松の教育思想の体現者であると言ってよいだろう。

以上のような宮崎が、教壇に立てなくなってもなお他の教師の力を借りて実現させようとした、小学校6年間の仕上げの学習として位置付けられる単元「卒業を前にして」は、重松の教育思想の具体的な形としての「しみじみとする授業」のその先が何であるのかを知る上で、意義あるものと推察される。

2. 単元について

薄田級は4月から、社会科と総合的な学習の時間を使って、平和学習を実施した。小6社会での我が国の歴史に関する学習は、一人学習で進められたが、学習の最初の段階で「弥生時代になって生活は安定してきたけど、争いが起きるようになった」ことが話題になり、「縄文と弥生はどっちがいいか」についての相互学習（子ども達だけによる話し合い）を実施した（5月20日）。運動会終了後、今年度の修学旅行先である舞鶴引揚記念館での学習に向けて、「異国の丘」「岸壁の母」のCDを子ども達に聴かせた後「歌を聴いて思ったこと」を書かせ、大単元「岸壁の母」をスタートさせている。6月12日には、記念館の学芸員さんが来て下さり、スライドを使って

[†] Yoshihiro TAMEIKE*: What is it Lesson?; the Consideration that what Includes in the Future of Lesson with Deep Feeling

* Faculty of Education, Utsunomiya University

45分間、子ども達に話をした。だが、その後は一人学習に時間が取れず、2学期明けの8月末を迎えたが、それでも子ども達は、社会の歴史学習の際には、戦争と関連した作文を書き寄せてきた。9月の修学旅行後には子ども達に作文を書かせ、旅行前に書いてきたC男・S男の「お知らせ」をもとにした相互学習を実施した(9月27日)。10月に入り、11月17日に実施される音楽交流会で何をするかを学年全体で話し合い、修学旅行で学んだことを劇にして発表しようということになる中、F子はその台本を「お知らせ」発表し(10月2日)、それをきっかけとして子ども達みずから台本を作る一人学習が始まった。台本は発表会1週間前に出来上がり、学年全体での練習を経て発表会に至った。1月になって、1年間の振り返りをした後作文を書き、「卒業を前にして」の単元に入った。こうして迎えたのが本時である(以下参照)⁶⁾。

単元計画(17時間)

○第1次 今までの平和学習を振り返る(6時間)

- ・「音楽交流会を終えて」の感想を書く(1)
- ・K子の「お知らせ」作文を読み一人学習(3)
- ・K子の「お知らせ発表」をもとに話し合う(1)
- ・「今日の勉強で」を書く(1)

○第2次 「卒業を前にして」の一人学習をして作文を書く(5時間)

○第3次 「卒業を前にして」の相互学習(6時間)

- ・P男の「お知らせ」作文を読み一人学習(4)
- ・P男の「お知らせ発表」をもとに話し合う(本時)
- ・「今日の勉強で」を書く(1)

3. 授業分析

(1) 分節

授業は次の分節から成っている。

第1分節(1T～17T男) P男君が2年間で変わったことについて。

第2分節(18F子～25S男) 自分達もまた変わったことについて。

第3分節(26N子～38S男) P男君の運転する電車に乗りたい。

第4分節(39T～50日直) お互いへの感謝。

(2) 分節についての検討

第1分節は、P男の「お知らせ」作文を受け、P男が2年間で変わることが出来たことを賞賛し、またその理由について考えを述べ合い、P男がなりたいたいと思っている京阪電車の運転士になれると口々に

言い合う分節である。F子が話を変えると(18F子)、その問いかけに応じて、自分達もまたどのように変わったのかを振り返る第2分節となる。ここでは、わかってくれる仲間がいることや変わる気持ちの大切さが、子ども達によってあらためて確認される。P男の運転する電車に乗りたいと言ってN子が話を変え(26N子)第3分節となると、今のP男なら安心出来る運転士になれることや、P男の成長ぶりを子ども達が述べ合う。最後に言いたいことはないかという教師の問いかけから第4分節となり(39T)、仲間へのお礼や、夢を諦めずに6年1組で頑張ったことを忘れないで夢をかなえて欲しいことをP男が話すと(40P男)、次々に仲間への感謝の気持ちが披瀝され、時間切れで終りになる。

(2) 子ども達相互の関係性

各分節における間について見てみよう。

(表)文節ごとの間

第1分節 6O男<38>7J男<10>8S男<10>9K子<27>10R子<70>11P男<45>12I男・13P男<123>14S男<45>15R子<41>16O男<25>17T男<23> ○計 457 秒

第2分節 18F子<21>19R子<40>20A子<27>21T男<15><20>22K子<54><10>23F子<55>24Q男<61>25S男<119> ○計 422 秒

第3分節 26N子<13>27K子<36>28O男<26>29P男<15>30I男<7>31T男<24>32G男・33E子<15>34R子・35Q男<10>36H男<17>37G男<38>38S男<32> ○計 233 秒

第4分節 40P男<40>41T男<16>42C男<22> ○計 78 秒

この表に見る限り、間の合計は第1・第2分節が多くまたほぼ同じであるから、子ども達の高度なバランスが維持されているのはこの2つの分節であり、そこに授業の山場が来ていることが了解される。また、この山場は、何らかの問題についてその解決方法をあれこれと述べ合うような性質のものではなく、P男が変われたことや、自分達もまた変わったことを述べ合う場として位置付けられている。このような場が授業の山場になっていることから考えると、これらを述べ合うことが子ども達にとって相当程度に重要で意味のあることだということが示唆される。

ここまでで授業は30分が費やされているが、残りはまだ20分程度もある。一体子ども達はその時間をどのように使っているだろうか。子ども達は、山場

を乗り越えてすぐの第3分節では、P男の運転する電車に乗りたいたいということを述べることによって、自分達も変われたことや、P男が変わったことへの感謝の意を表すのであり、最後の第4分節ではあらためてありがたい言葉を言い合い、6年生での学習を将来に生かせるよう頑張りたい(48L子)として終わっている。

つまり、授業の山場を乗り越えた子ども達が行っているのは、それぞれが6年1組の一員として存在していること、即ち、互いに関係しあうことが真に必要なことであり、他者があることによって自己があったことへの、他者に対する感謝であり、そのように存在する自己と他者の尊厳の確認である。

また、薄田のこれまでの相互学習の発言回数は、60から70前後であるのに対し⁽⁹⁾、この授業は50となっていて、発言数がきわめて少ないと言えよう。加えて、間の合計は19分50秒にも達しており、授業の山場は言うまでもなく、山場を乗り越えた後も含め、授業全体が間によって生み出され、間の中に浮かび上がっていると云っても過言ではない。子ども達は間を大きく取り、自己と他者の尊厳に向き合おうと、高度のバランスを保っているのである。子ども達が冗談を言っているように見える箇所(21T男・その際のH男, 22K子, 28O男, 33E子, 47V男)は、それを保つのに必要なユーモアと解すべきである。

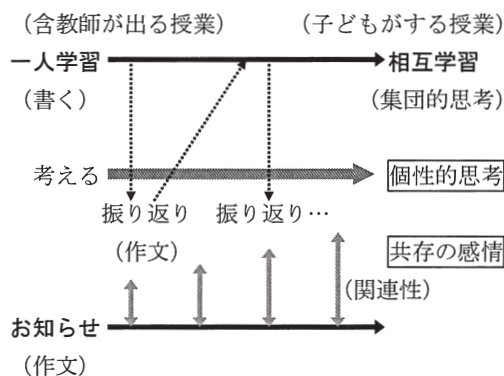
4. 考察

「しみじみとする授業」は、子ども達一人ひとりの学習の深まりと、集団性の高まりによって、初めて教室に立ち現われる、子ども達による助け合いや協力が著しい授業である。重松が見出した「よい授業」のより高度な形は「しみじみとする授業」なのではあるけれども、的確な指導のもとで「しみじみとする授業」が教室に立ち現れた時、子ども達はその先へ行こうとするようになる。このような時に設定されるのが、最終単元「卒業を前にして」である。勿論、「卒業を前にして」は6年生の最終単元であり、各学年においてもそれは設定可能である。この時、子ども達が行うのは、何かの課題の解決に向けた学習なのではなく、学習の対象のない、その意味では取り組むことが困難な学習である。

以前、薄田が実施した際には⁽¹⁰⁾、子ども達は中学生になる不安や将来の夢を、これまでの学習の延長線上で述べ合う授業となった。そこには、子ども達

相互の動的な捉えを見出すことは出来たが、今回の実践のように、自己と他者の尊厳に静かに向き合うものではなかった。さらに、以前の実践では、子どもの数も多く、全体を引っ張るような、力強く多様な意見が出されたのであるが、今回の実践では、子どもの数が少ないこともあって、それほど力強い意見は出されなかった。その代わりに、5年生では孤立していたF子を子ども達が積極的に受け容れようとするのでF子が劇的に変わり、6年生では、問題行動のあったP男が1学期から変わろうとする姿—誰かがこぼした給食を一人黙々と拭き取る—や、P男を受け容れようとする姿—京阪電車について延々と続く長い「お知らせ」にお尋ねする子ども達—を教室で目の当たりにした。

このような子ども達の動きは、教師の指導とは無関係な偶然の産物ではない。①「お知らせ」によって生活と学習を結び付けながら集団性を高めつつ共存の感情⁽¹¹⁾を醸成し、②書くことを通して粘り強く考えることで個性的思考⁽¹²⁾を顕現させ、③そのことによって相互学習へと連なっていく過程において、起こり得る出来事なのである(下図参照)。



我々教師は、「子どもの変容」という言葉を口にします。1時間での「子どもの変容」。単元での「子どもの変容」。〇〇教育による「子どもの変容」等々。しかし、「子どもの変容」がそれほどたやすく起こるのなら、教育ほどお目出度いものはない。なぜなら我々は、自分自身がなかなか変わらないものであり、もし変わるとしてもそれが正しく変わることが、またその正しさをそのままに保ち続けることが、さらには一歩でも正しく前進することが、どれほど難しいものかを知っているからである。したがって、「子どもの変容」という言葉の濫用は、それを問題とする際の子どものための働きかけが、教育という

営為の手前にあるものだとも言えるだろうし、変容を見る手がかりが教育をとらえようとするものにはなり得ていないとも言えるだろう。

薄田が2012年3月に卒業させた子ども達の2年間、そして、2014年3月に卒業させた子ども達の2年間を、教室に何度か足を運び、子ども達を見守り続けて言えるのは、様々な手立てによって子ども達の学習や集団性の深まりが生まれると、授業が変わるといふことであった。それは、教師主導の授業が「子どもがする授業」となり、「しみじみとする授業」になることであるが、これらは子ども達の間味溢れる営みによってもたらされるのである。矛盾の淵に落ちた仲間にはそんなに深刻にならなくてもいいと言うけれどもじゃあどうするんですかと言ひ合える人としての交流⁽¹³⁾。戦争をなくし誰もが平和に暮らせるためには考え続けなくてはならないという動的な在り方への気付き⁽¹⁴⁾。他を尊重しながらも自己であること⁽¹⁵⁾。これらは、ごく当たり前でありながら、だからこそ実現の難しい、そしてまた力づくでそうさせようとする本物ではなくなるものばかりである。

「子どもの変容」は、まさにこのような中において突如として現れる。だがそれは、人としての交流が根底にあり、一人ひとりの学習が行われ、考え続ける動的な在り方や、他を尊重しながらも自己として在るその在り方が集団を作り、自己を自己たらしめた時、必然的に現れるのである。なぜなら、その時、子ども達は、自己の内に完結しない、動的に伸びゆく思考を身につけているからである。教師が目を凝らさなければならぬのは、結果としての「子どもの変容」ではなく、まるで何も変わらないように見える、長く地道な子ども達の営みなのである。

筆者が他の論考で明らかにしたように⁽¹⁶⁾、動的に伸びゆく思考とは、重松鷹泰が初等社会科を作った時から目指していた、共存の感情に支えられた個性的思考である。そして、その成果を見るのが、最終単元なのである。最終単元の学習には対象がないと先述したが、授業記録からもわかる通り、その対象は自己、それも他者に支えられた自己、つまり自己であり他者である。このような学習が成立した時、そのような自己や他者に対して口にする言葉は、たやすく見出すことは出来ない。今回取り上げた授業では、P男が変わったことをについて話をすることで、ようやく子ども達の言葉が紡ぎ出された。それ

ゆえ第1・第2分節は間の取り方が大きいのであり、それゆえ第3・第4分節は互いへの感謝と、自己と他者の尊厳の確認なのである。このような感謝と確認は、まさにそうするしかないからであって、ために深く、ために敬虔であり、ために素朴な祈りなのである。「しみじみとする授業」のその先にあるものは、我々が我々として存在することへの祈りにも似た感謝である。授業はそこに向かっていく方便であり、したがって学習内容はそこに向かう中で包摂され、「しみじみとする授業」はそこに確かに向かっていることを我々に教えまた勇気づけるのである。

(謝辞) この4年間にわたり、参観することを受け容れ、論文にすることを快諾して下さい、上牧満校長先生、薄田大智先生、ありがとうございます。宮崎富士也先生はこの論文執筆中、2014年3月29日に亡くなりました。これまでのご指導に感謝申し上げます心よりご冥福をお祈りいたします

注

- (1) ①拙稿「しみじみとする授業 - 重松鷹泰による『奈良の学習法』の継承と発展」(『学習研究』第458号, 2012.8), ②「問題解決学習から『しみじみとする授業』へ(1) - カルテ・座席表再考」(『考える子ども』第350号, 2013.5), ③「問題解決学習から『しみじみとする授業』へ(2) - カルテ・座席表再考」(『考える子ども』第351号, 2013.7), ④「問題解決学習から『しみじみとする授業』へ(3) - 子ども達が教えてくれるさまざまなこと」(『考える子ども』第354号, 2013.11), ⑤「問題解決学習から『しみじみとする授業』へ(4) - 思考の感応・共存の感情」(『考える子ども』第355号, 2014.1), ⑥「社会科教育における重松鷹泰の授業分析研究の意義 - 『子どもがする授業』の発見と追究に着目して」(『社会科教育研究』no.121, 2014.3).
- (2) 拙稿「授業とは何をいうか - 『奈良の学習法』における子どもの動的捉え」(『宇都宮大学教育学部教育実践総合センター紀要』第35号, 2012.7).
- (3) 金津琢哉「伝え合い、響き合う子たちに導くために - 『卒業を前にして』(第六学年・けいこ)」(『学習研究連盟 研究活動の集録』第25集, 2005.1)。奈良女子大附属小学校・6年生組にて2004年2月に実施。薄田大智「卒業を前にして」は、2008

年、大阪・寝屋川市立東小学校第6学年で、また大阪・寝屋川市立楠根小学校・6年1組・2012年2月17日、第4校時、11時30分～12時15分に実施されている。2012年の授業記録は、前掲(2)を参照のこと。

(4) 学習研究連盟編『追悼集・重松鷹泰先生』(大阪書籍、1996)参照。

(5) 重松鷹泰「まえがき」(宮崎富士也『ひとりを見なおす理科の授業』明治図書、1976)。

(6) 前掲(5)宮崎『ひとりを見なおす理科の授業』。金津と宮崎とのつながりについては、金津琢哉「学研連と私」(学習研究連盟編『学習研究連盟六十周年記念・わたしたちの歩み』2013)を参照のこと。奈良女子大附小の教官であった金津の言う「宮崎先生の個人レッスン」は、2003年2月の学習研究発表会の後で開始された。前掲(3)の金津実践は宮崎や春蘭(宮崎・武知によって始められた学習研究連盟の関西での研究会)によって支えられて、平成15(2003)年度に担任した6年星組で1月から実施された。

(7) 宮崎のこの授業は、重松鷹泰「授業記録に学ぶ」(『学習指導研究』1985.3)に掲載され、重松によって高く評価された。以下はその一部。「宮崎さんの授業も授業記録も、ずいぶんたくさん見せてもらったが、『どうもいねいすぎる』、ひどい言い方をすれば、『ばかといねいである』と言わざるを得ないものが多かった。今回の授業の第一印象もそうであったが、この授業記録を読んで、宮崎さんのいねいさが、しつこいものでなくなり、お子さまたちを生かし、学級をすばらしいものに育てあげる方

に働いていることを痛感し、思わず歓声をあげたのである」。その後、この授業記録は帝塚山学園授業研究所編『よい授業の条件 小学校1年』(明治図書、1988)に上記の評価と共に再録された。なお、神田平介監修・杉山浩之編著『自立する子どもと授業』(京都・法政出版、1997)には、実践における子ども達の作文等も一緒に収められている。精確な授業記録は「授業記録に学ぶ」を底本として、拙稿「問題解決学習から『しみじみとする授業』へ」(5)-学年的発達・共存の感情」(『考える子ども』第356号、2014.3)に集録した。

(8) 薄田大智「6年・総合的な学習の時間 学習指導案(寝屋川市教研資料)」(2014年2月26日)。

(9) 前掲(1)⑥、(2)、拙稿「授業とは何を言うか-社会科における『しみじみとする授業』の意義」(『宇都宮大学教育学部教育実践総合センター紀要』第36号、2013.7)。

(10) 前掲(2)。

(11) 前掲(1)⑤参照。

(12) 前掲(1)⑥参照。

(13) 拙稿「授業とは何をいうか-『奈良の学習法』の『しごと』としての社会科授業-」(『宇都宮大学教育学部教育実践総合センター紀要』第34号、2011.7)。

(14) 前掲(2)。

(15) 前掲(9)「授業とは何をいうか-社会科における『しみじみとする授業』の意義」参照。

(16) 前掲(1)①⑥参照。

付 授業記録・卒業を前にして

- a. 日 2014(平成27)年3月10日(月)
- b. 時 第5校時(13時45分～14時34分)
- c. 天気等 曇り後雪
- d. 級 6年1組・薄田大智級
- e. 児童数 17名
- f. 授業者 薄田大智
- g. 場所 6年1組(教室)
- h. 参観者 楠根小学校教員(校長・教頭含)
伊藤博之、金津琢哉、伊藤夕輝子
溜池善裕
- i. 記録者 溜池善裕
- j. 教科 総合
- k. 単元等 「卒業を前にして」
- l. 性別 記録中に記載
- m. その他 なし

【1T】そしたらね、5分遅れましたけど、これから始めたいと思います。日直、挨拶しましょう。(日直、R子、M男、前に出てくる)【2日直】起立。これから5時間目の勉強を始めます。(C始めます)【3T】ではね、いよいよ、今日が最後のお知らせ発表になりました。で、最後は、「卒業を前にして」ということで、P男君のお知らせ発表をやりたいと思います。いいですか。ではP男君。お願いします。【4P男】ええ。卒業を前にして。2月14日。ぼくは5年生の米作りと、6年生の平和学習で学んだことは、日本の米作り農家は損をしていない、しないとやっていけないということだと思います。なぜなら昔は政府がお米を高く買って安く売るということをしていたけど、今の世の中はそんなことはできないのです。それはできなくなっているけど、日本にはお米が余っているからといって政府は減反

政策をして、さらに外国から輸入しているし、米価は下落しているので、今の日本の農家は苦しいんだと思います。だからみんなにパンじゃなく、お米を食べて、お米を消費したらいいんじゃないかと思えます。えっと、ぼくは心から思った米作り農家の人は、苦勞している。だからこそお米一つ一つ大切に食べたいです。この。食べたいです。(以下の部分を読み飛ばす。「5年で知った米作りは、少しだけ平和学習につながっていると思いました。例えば、日本はアメリカに車を大量に輸出しているので、アメリカは、そんなに車を輸出してくるんだったら、米を輸出させろとって、日本はOKしました。もしも日本がNOと言ったら、戦いになったかもしれません。」)平和学習では、なぜ戦争はやまないのかということを考えて、ぼくは、戦争をなくならせる原因は、いくら探しても、たどりつけないと思えます。でも、みんなの心が一つになった時、初めて戦争はなくなるんだと思えます。シベリア抑留では、多くの人がシベリアという異国で死んだ。戦争は、1945年8月15日で終わったわけではないということを知って、ぼくは本当によかったと思った。なぜなら、広島に原子爆弾が落とされたということはほとんどの人が知っているけど、シベリアの事実は知らん人が多くいるので、これを知って良かったと思えました。将来は、京阪電車の運転士になりたい。自分の生き方は、事故などがなく、乗客の命と希望を運ぶような運転士になりたい。中学に行っても、何事もあきらめず、「絆」をもって、中学校に行っても6年1組で学んだことを忘れずに、みんなと、友達を大切に、6年1組・22人、いや6年生44名で新たな希望をもち、共に中学にいきたいです。この6年をふり返って、4年生の時に先生をからかったりして、5年生の時になべを空だきにしたりして、迎居さんにはも大きく迷惑をかけたりにして、おこられてもくり返していた。ぼくは5年生が終わって6年生になろうと思って、薄田先生の6年1組でした。「これからは絶対に何があっても変わろう。人にはご迷惑をおかけしない」と思い、6年生になって、6年1組の仲間がこのメンバー、この22人によかったと思っています。ぼくはこの22人がいたからこそ、変わったんだと思えます。いつも明るいメンバー、休み時間には暴れ回っている22人がいたから、ぼくはこんなにも変わったんだと思えました。中学に行っても、6年1組のような明るく、笑いがあるクラスであってほしいと思えます。終わります。(C、拍手)【5T】じゃあ、ええ、今の、P男君の発表について、ちょっとだけ時間取りますので、もうちょっと自分でまとめる時間にしたいと思います。考えて下さい。…間2分22秒…《5分》それではいいですか。ええ、今のP男君のお知らせ発表について、言いたいことがある人。誰からでもいいですから、手を上げて下さい。お願いします。(O男、挙手)…間19秒…そしたら、行きますかO男

君。(O男、うなづく)お願いします。【6O男】いいですか。(C はい)僕はP男君の作文を読んで、P男君はほんとに変わったんだなと思いました。だから僕はP男君のことをお手本のように思っています。だから、P男君に負けられないように、困難や不安に勝ちたいと思えます。どうですか。(T、板書。J男、挙手)J男君。【7J男】(立ったまま板書を待つ)…間38秒…いいですか。(C はい)僕は5年の時、5年生の時、P男君にいらっときたりしてたけど、僕もP男君は皆がいたから変わったんだと思えます。どうですか。(S男、挙手)S男君。(T、板書)【8S男】…間10秒…(板書が終わってから立つ)いいですか。(C はい)僕はJ男君と少し違って、P男君は皆のおかげで変わったと言ったけど、P男君がその考えを持って実行出来るのが出来たから、P男君もすごいと思えます。どうですか。(T、板書。K子、挙手、にこにこしてS男を見ている)…間10秒…K子さん。【9K子】私もS男君と一緒に、P男君は自分の中で、変わろうと思って本当に変わったのが、すごいと思えました。どうですか。(T、板書)…間27秒…《10分》(R子、挙手)R子さん。【10R子】はい。いいですか。(C はい)私もS男君とK子さんと一緒に、P男君は皆がいたから変わったって言うけど、P男君自身も、努力したから変わったんだと思えます。どうですか。(T、板書)…間1分10秒…あ、P男君。【11P男】いいですか。(C はい)ええと、僕は、ええと、ええと、その、皆の、皆に支えられて変わったという所と、と、変わったという所の方が十分大きいです。と、それ…(P男、ファイルをめくって確認。隣の席のA子がP男にうなづく)変わったのは、えっと、変わった理由は毎日学校が楽しかったからということもあると思えます。ええと、どうですか。(T、板書)…間45秒…(挙手)あ、えっ、I男君。【12I男】いいですか。(C はい)P男君にお尋ねで、毎日学校が楽しかったって、何で楽しいと思うんですか。【13P男】(座ったまま)えっと、えっと、毎日、えっと皆と遊べたし、えっと、何て言ったら…皆と同じ教室で過ごして毎日楽しかったです。(I男 ありがとうございました)(T、板書)…間2分3秒…《15分》S男君。【14S男】いいですか。(C はい)僕はP男君がそんなに変わるんだしたら、京阪電車の運転士には絶対になれると思えます。どうですか。(T、板書)…間45秒…R子さん。【15R子】いいですか。(C はい)ええと、私もS男君と一緒に、P男君は、京阪電車の運転士になれると思えます。ええ、どうですか。(R子、着席)(T、ええ。C 理由は)(宮岡、着席のまま)えっと、乗客の命と希望を、運ぶ運転士になりたいって書いてあって、P男君はこんなにも、(R子、立つ)変わったんだから、えっと、なれるん違うかなと思えます。(T、板書)…間41秒…(O男、挙手)O男君。【16O男】い

いですか。(C はい) 僕もS男君とR子さんと一緒に、あのP男君は、ええ、希望、え、運転、希望、え、京阪の運転士になれると思います。何故かと言うと、ええ、P男君は京阪電車のことを一杯知って、なんかいつも変なことを(P男、笑う。C、笑う)やってるから出来ると思います。どうですか。

(T、板書) …間 25 秒… (T男、挙手) T男君。【17 T男】いいですか。(C はい) 僕もS男君達と一緒に、P男君は京阪電車の運転士になれると思います。理由は、O男君と似ていて、京阪に詳しいし、京阪のこ、京阪のことをP男君は好きやからなれると思います。…間 23 秒… 《20 分》 (F子、挙手)

【18F子】いいですか。(C はい) あ、話を覚えていいですか。(C はい) ええと、P男君もこの何年間で、薄田先生のクラスになって、ええ、変わったと思いますが、皆も何か、ええと、この2年間で変わった所とか、変わったこととか、自分の中にありますか。(T、板書) …間 59 秒… (R子、挙手) R子さん。(P男 はい。C、笑う。話し合い中断)

…間 21 秒… 【19R子】いいですか。(C はい) えっと、私は、えっと、5年生の時は、なんか、学校あんまり行きたくないと思っと思ったけど、6年生になって、皆と一緒にいたいと思えるようになったから、変わったと思いました。どうですか。(T、板書) …間 40 秒… (A子、挙手) A子さん。【20A子】いいですか。(C はい) えっと、私は5年生と違う友達、新しい友達が出来、ま、した。(C、笑う。T、板書) (A子、着席したまま) どうやって言えばいいかな。(T、板書) …間 19 秒… (T A子さん、6年の時?6年の時やね) …間 27 秒… (T男、挙手) あ、T男君。【21T男】いいですか。(C はい) 僕はちょっと悪知恵がついたくらいやと思います。(C、何て何て何て? C、笑う) …間 15 秒… (K子、挙手) K子さん。【22K子】(立って板書を待つ) …間 20 秒…いいですか。(C はい) T男君にお尋ねです。どんな知恵が、悪知恵がつかましたか。(C、笑う) (H男 鼻水。A子 それ失礼) …間 54 秒… 《25 分》 (C 言えよ。P男 どういう悪知恵がついたん? 言ったらあかんで。C、笑う。T男 ようわからん。T 何かあれば、いいですよ) F子さんは何か変わりましたか。(F子、笑う。C、笑う) …間 10 秒… 【23F子】(嬉しそうに笑いながら) いいですか。(C はい) 皆、確かに何か、歌を聴いて変わったっていうのもあるけど、なんか、やっぱりこんな自分やから、喜怒哀楽も激しいし、何か、何か、あんまり言葉でうまく出せないこともあるけど、皆がちゃんとわかってくれたから、変わった、のかも知れないと思います。(T、板書) …間 55 秒… (Q男、挙手) 【24Q男】いいですか。(C はい) 僕は皆と違って、変わったって言うより、P男君から変わる気持と、仲間がいれば変わるっていうことを教えてくれたから、自分がもし壁に当たったりしたら、それを思い出して頑

張りたいと思います。どうですか。(T もう1回言って) 僕はP男君から、変わる気持と、仲間がいれば変わるということを知ってくれたから、もし自分が壁に当たった時には、P男君から教えてもらったことを思い出して、頑張ると思います。どうですか。(T、板書) …間 1分 01 秒… (S男、挙手) S男君。【25S男】いいですか。(C はい) えっと僕はP男君が、えっと、命と希望を運ぶ運転士になりたいと言っているけど、ええ、十分努力する希望を与えてくれたんだと思います。どうですか。(T、板書) 《30 分》 …間 1分 59 秒… (N子、挙手) N子さん。【26N子】いいですか。(C はい) P男君は誰よりも色んな所に気を配れるし、色んな良い所があるので、私はP男君はなれると思います。(T、板書。T ごめん、最後のもう一回言って。ごめん) 色んな良い所がある。し、(T うん。色んな良いところがある。T、板書。T もう一個) ので、なれると思います。それで、私はP男君が運転士になったら、一番に、P男君が運転する電車に乗りたいです。どうですか。(K子、挙手) K子さん。【27K子】いいですか。(C はい) (立って板書を待つ)

…間 13 秒…私もN子さんと一緒に、P男君が運転士になったら電車に乗りたいです。どうですか。(H男 その理由。その理由は) P男君は、優しい所とか、やってるんやとか、急に掃除してたりとか、係の仕事をしてそうだから、P男君の電車とかがめっちゃ安全そうやから (C 安全って何を?) (着席する) (O男、挙手。T、板書) …間 36 秒… 【28O男】いいですか。(C はい) ええ、P男、僕もあの、運転士になれたら乗りに行きたいけど、何か、いつもP男君が何か電車で脱線したとか (C、笑う。P男 あれ、ゲーム、ゲーム) どうですか。《35 分》 (C 脱線したるって。P男、挙手) P男君。(T、板書) …間 26 秒… 【29P男】はい。いいですか。(C はい) ええと、それはゲームの話です。脱線したるは。僕が運転士になったら、ええと、僕が運転する電車に安心して乗って欲しいと思っています。皆を、えっと、運転するんで乗せたいです。どうですか。(T、板書。R子、T男、I男、挙手。) …間 15 秒… (C P男。P男、板書で発言者を確かめて) あ、I男君。【30I男】いいですか。

(C はい。まだや) えっ (立ったまま板書を待つ) …間 12 秒… P男君が言ってる、その、ゲームってのは何なんですか。(P男 えっ、ゲームが何て?) 脱線したって言ってる。それはどういうことですか。(P男 だから、それはゲームであって、その列車暴走させてカーブで脱線する。(C、笑う。C 恐ろしいことやる。大丈夫か) …間 7 秒… (T男、挙手) 【31T男】いいですか。(C はい) 2年、2年ぐらい前のP男君だったら、ほんまに脱線しそうなんて怖いです。今やったら安心して乗れそうです。(H男 何やって?) どうですか。(T、板書) …間 24 秒… (R子、G男、挙手) G男君。【32G男】いい

ですか。(C はい) 僕もT男君と一緒に、2年前ぐらいのP男君だったら、ええ、いきなり、なんか変なこと言ったり、ブレーキ壊したりしそうで、なんか怖かったけど、今なら、変わったって言うてるから、不安なしで安心して乗れます。どうですか。(R子, E子, 挙手) E子さん。【33E子】はい。えっ? (N子 いいですか) いいですか。(C はい) (笑いながら) 私もG男君とおんなじで、今までP男が犯してきた罪を考えてたら (C 笑う) 乗りたくないけど、今のP男やったら安心して乗れると思います。どうですか。(C 罪。罪。C 笑う) …間 15秒…R子さん。【34R子】いいですか。(C はい) 私もE子さん達と一緒に、2年前ぐらいのP男君やったら、勝手に変な所で停まったりとかしちゃうけど、今なら、なんか、安心して乗れると思う。どうですか。(Q男, 挙手) Q男君。(T, 板書) 【35Q男】いいですか。(C はい) (チャイム鳴る。T あと5分) 今みんな、安心して乗れるって言うてるけど、何でそう思うのですか。(G男, T男, H男, 挙手) T男君 (C H男, H男, H男) H男君。(T, 板書) 《40分》【36H男】(立って板書を待つ) …間 10秒…え、え、P男君は昔はよく悪いことしてたけど、今は普通に優しいとか、気を配ってくれるので、僕は今は、今なら乗りたいと思います。(A子 気を配るってどういう意味。P男 文字通りの意味) (G男, S男, 挙手。T, 板書) …間 17秒…G男君。【37G男】いいですか。(C はい) んと、僕はP男君が変わるって決心したから、その言葉を信じて安心して乗ろうと思いました。どうですか。(T, 板書。S男, R子, 挙手) …間 38秒…S男君。【38S男】いいですか。(C はい) えっと僕は、えっと、P男君は、えっと、電車のドアが閉まりそうなのが、人を助けたし、そういう人を助ける人が、その暴走とかする、はずがないと思うからです。どうですか。(T, 板書) …間 32秒…【39T】そろそろ時間なんですけど、言うときたいことがある人どうぞ。(R子, P男, 挙手) …間 6秒…(S男 P男君) 【40P男】いいですか。(C はい) えっと、僕が皆に言いたいことは、何があっても、どんな困難があったとしても、夢を決して諦めずに、6年1組で頑張ったことを忘れずに、夢をかなえて欲しいです。そして、えっと、僕を支えてくれてありがとう。(C, 笑う。T, 板書) …間 40秒…T男君。【41T男】いいですか。(C はい) 変わる前は分からないけど、P男君が変わってからは、P男君にだいぶ僕達も支えられていると思います。…間 16秒…(O男, C男, 挙手) C男君。【42C男】いいですか。(C はい) (チャイム鳴る) やっぱ、皆が、皆、人の支えがあったらかわれたと思います。どうですか。(T, 板書) …間 22秒…《45分》【43T】はい。ちょっとチャイムが鳴っちゃいました。最後に、最後に、言いたいことある人、ほんなら。いますか。最後に、言いたことある人。立って。立って。

順番に言っ。(C 言っない人。R子 最後や、立とうや。D子, U子) 言うの? 言うんですか。手を上げたM男君から言ってもらおうかな。はい、M男君どうですか。【44M男】P男君は皆から支えられてるって言うけど、僕達もP男君から支えられてると思います。(T どうする? D子さんどうぞ) 【45D子】P男君は最初に、これから絶対何があっても、変わるって決意しただけで変わったのはすごいと思いました。【46U子】T男君と似て、P男君は掲示物を張り替えるのが早かったり、してくれる、早かったりしたので、と思うから、支えてくれたんだと思います。(T 今日もなくなってるものな。掲示物な) 【47V男】僕は、ええ、もし、P男君が夢をかなえるために頑張ってる時に、何かあっても、もしP男君が夢をその諦めたら、またそのゲームみたいに脱線したるか思ったら、ちょっと怖いんで、まだ半分は安心し切れてないです。(P男, 拍手。C, 笑う) 【48L子】えっと前までは、P男はハサミ投げたりとか、ノリ投げたりとか、マイネーム投げたりとかしてたけど、6年生になって変わってるから、L子もL子も、明るく優しくなって、あのう、将来に、生かせるように頑張ります。【49T】ありがとうございます。残念ですが、お知らせの発表会、これで終了です。で、最後に一個だけ先生からお話させて下さい。すごくP男君のことを中心に、発表の中で考えてくれました。最後に、「今日の勉強で」を書いて、全ての学習終わります。その時に一個だけ、先生注文付けさせて下さい。何かと言ったら、さっきね、L子さんが最後に言っくれたこと。最後に、P男君がこうだった。そして、だからこそ、自分も言っったよね。色んな夢をもって、これから決意表明、卒業式に向かっやっていくんだけど、じゃあ、このP男君の今日の発表、また今日の話し合いから、じゃあ自分の将来はどうなんやっって、何か、自分が新たに考えたことか思っったことが、この話し合いの中で生まれたら、それを最後に「今日の勉強で」に書いてもらいたいと思います。とっても楽しい時間を過ごすことが出来ました。ありがとうございます。じゃあ日直、前に出てきて下さい。(R子, M男, 前に出てくる。C, 起立する) 挨拶の前には後ろ、先生方の方、向いて下さい。近くの先生で良いですよ。お忙しい時間を(P男, こちらに向かっおじぎをする) 何とか都合をつけて来て下さった先生に、最初にお礼を言いたいと思います。はい、ありがとうございます。(C ありがとうございます) 正面向いて下さい。【50日直】(R子) これで5時間目の勉強を終わります。(C 終わります) 《49分 16秒》

(付記) 本論文は JSPS 科研費・課題番号 25381166・基盤研究(c)「小学校社会科における知識・技能の総合的な活用を目指す授業モデルの構築」(2013-2015)の助成を受けた。